

第 19 回聖書輪読会報告

日 時：2024 年 10 月 31 日(木) 20:30～22:15 (1hr45 分)

場 所：オンライン (WEBEX)

参加者：今村あずさ (西大井教会牧師)、本多謙委員長、林芳子(26 期)
南光 望 (62 期 書記) 以上 4 名

司 会：本多委員長

最初、オンラインの不具合があり、開会が少し遅れた。

内 容：

- 前回までで、エゼキエル書 (全 48 章) を読み終わりました。この書はなかなか厳しい内容で、また難しかったので、今回は傾向の全く違う、「雅歌」を採り上げます。それでは今村リーダーにお願いします。 <本多>
- 今回は、「雅歌」を読みます。中世のある神学者が言っています。「この聖書は神と人との関係の良い姿を描いている」 <今村>
- (雅歌 1 章～8 章 を各自 2 節ずつ輪読する)
- そのあと、自由な話し合いをした。以下、発言の中からランダムに主なものを下記する。
- 「雅歌」を読むと、讃美歌「シャロンの花」(讃美歌第二編 192 番) を思い出します。(一節を口ずさむ人あり)
- この書は本当に神様と人との美しい関係を表していると思います。
わたしたちはすでにこのような記述を読んでも、血が騒ぐというようなことは、あまりない年齢に達していますが、エゼキエル書を読むときには感じなかった、穏やかな、優しい気分になります。
- 人生に罪 (死) が入り込んで以来、このような神と人との美しい関係は、この書だけになってしまったのでしょうか。
- 私の学校で、今「詩編」をよんでいます、なかなか、「雅歌」にはたどりつけませんね。
- 高校生に、「雅歌」を読ませて、感想を聞きたいですね。
- 生徒たちの素行が悪かったりすると、「イザヤ書のこの個所を、何回書いてきなさい」みたいなことが行われています。これではかえって聖書を彼らから遠ざけてしまいます。
- 自分たちの子供のころのこと、青春時代のこと、そして、結婚生活のこと、など、話題は尽きなかったが、時間が来て、今村牧師のお祈りで、会を閉じた。次回は、コリントの信徒への手紙 I を読む。

以上